



津屋崎

令和5年9月1日（金）
福津市立津屋崎小学校
校長 木庭竜之助

自分の命と安全を守る力を育む

9月1日は「防災の日」

9月1日は防災の日、9月1日からの一週間は防災週間として、毎年、全国で様々な取組がなされています。今からちょうど100年前の1923年9月1日に関東地方を中心にマニチュード7.9の大地震《関東大震災》が発生し、大きな被害が出ました。この地震を教訓にして、日頃から災害に備えることができるようにと9月1日を防災の日としているのです。

日本は、関東大震災以後も、いくつもの大きな地震により、甚大な被害を経験してきました。また、地震だけでなく、豪雨被害など毎年のように各地で自然災害を経験し続けています。これらの災害から自分の命と安全を守ることができるようになることは、大人だけでなく子どもにとってもとても大切なことです。

災害への備えを考えると、「自助」「共助」「公助」の3つの視点で考えることができます。

災害への備えという、市や消防、県や警察、自衛隊といった公的機関による救助・援助である「公助」が思い浮かぶかもしれませんが。しかし、被害が大きい場合など、対応できないことがあることをこれまでの災害で経験してきました。大切にしたいのは、「自助」。災害が発生したときに、まず自分自身の身の安全を守ることです。そのうえで、地域やコミュニティといった周囲の人たちが協力して助け合う「共助」を大切にしたいと考えています。



津屋崎小学校をはじめ、津屋崎校区では、東日本大震災を契機に、地域のみなさんとともに防災・減災に取り組んできました。中学校では、地域の一員として「共助」に貢献できる力を育てていこうとしています。小学校では、その土台となる「自助」の力を育むことに重点を置いて、防災・減災教育に取り組んでいます。自分の命と安全を自分で守るためには、自分で考え、判断し、行動する力が大切であると考え、小学校での防災教育は続けられています。危険を予見して、危険な状況にならないよう行動する。危険が避けられない状況になったら、少しでも被害を減らすことができるよう行動する。そのための知識を学ぶとともに、日頃から、自分で考え、判断し、行動することを、当たり前の習慣にしていくことが、大切な自分の命や安全を守ることに繋がると考えています。



防災の日。この機会にあらためてご家庭でも「自分の命と安全を守る」ことについて考えていただければと思います。

自分で学ぶ みんなと学ぶ

2学期がスタートして1週間。それぞれの教室では、子どもが主役になる授業が始まっています。算数の問題を、みんなで一緒に考えて、どんどん分かるようになっていく2年生。初めてのミシンを、みんなで教え合い、考え合いながら、一人一人が自分の作品をつくっている5年生。自分のタブレット端末の機能を上手に活用して、課題を調べ、追究し、友だちと一緒に考えを練り上げている6年生。学びの形は、さまざまですが、一人一人がしっかりと考えること、そして、一人一人がだれかと一緒に考えることで、できるようになった、学んでよかったと思えるようになることが、今の学習の基本なのです。先生から教えられることを黙って聞くだけでなく、一人一人が自分で学ぶ、みんなで学ぶ、本校ではそんな「子どもが主役の学び」を大切にしています。



9月の主な行事

4日(月)	教育相談週間 (22日まで) 租税教室 (6年生)	21日(木)	代表委員会
7日(木)	委員会活動	22日(金)	クラブ活動
12日(火)	海洋体験 (5年1組) 中学校職場体験	23日(土)	秋分の日
13日(水)	いじめアンケート 海洋体験 (5年4組) 中学校職場体験	26日(火)	修学旅行(6年生)
14日(木)	海洋体験 (5年3組) 中学校職場体験	27日(水)	修学旅行(6年生) 性暴力対策アドバイザー講座(5年生)
15日(金)	PTA 例会・学習参観・懇談	28日(木)	海洋体験 (5年5組)
18日(月)	敬老の日	29日(金)	海洋体験 (5年2組)